

The background features a stylized illustration of a hand holding several colorful spheres (red, yellow, green, orange) against a warm orange gradient. The hand is rendered in a light, semi-transparent style, with the fingers gently cupping the spheres. The overall aesthetic is clean and modern, with a focus on vibrant colors and soft lighting.

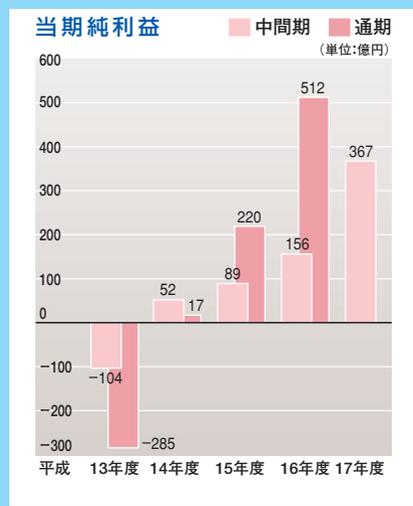
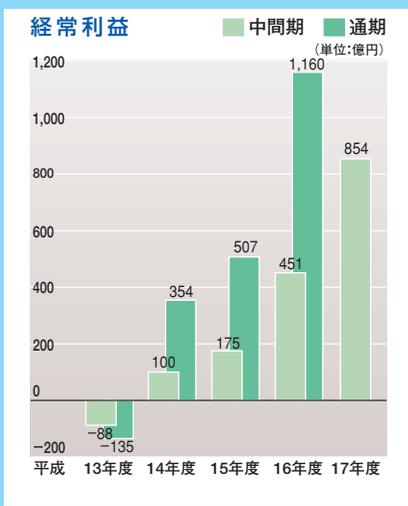
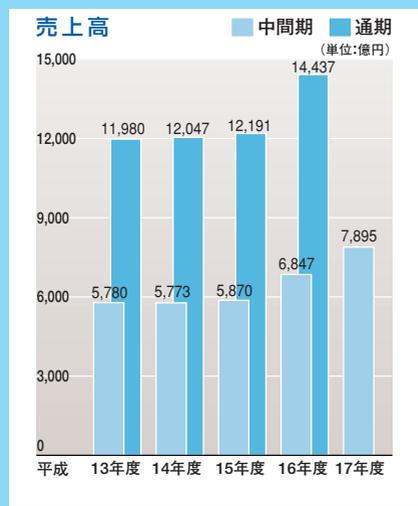
# KOBELCO

## 第153期 中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日

# 財務ハイライト

## 〈連結〉



## Business Field

### 鉄鋼関連事業

普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼、厚板、中板、薄板（熱延・冷延・表面処理）、鋼片、鍛造鋼品、チタンおよびチタン合金、鉄粉および粉末製品、鋳物用銑、製鋼用銑、スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス、溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、溶接関連試験・分析・コンサルティング業

### 電力卸供給事業

電力卸供給

### アルミ・銅関連事業

飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔、空調用銅管、半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、復水管、アルミニウム合金およびマグネシウム合金鋳鍛造品、アルミ加工品

### 機械関連事業

各種プラント（製鉄・非鉄・ペルタイジング・石油化学等）、エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、土木工事、橋梁、新交通システム、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、鉱山・砕石機械、各種環境プラント、資源再生・土壌浄化、冷却塔、各種内燃機関、重電機器、搬送機器

### 建設機械関連事業

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダー、クローラークレーン、ラフテレーンクレーン、作業船、電気ショベル

### 不動産関連事業

不動産販売・賃貸、ビルマネジメント、地域・都市開発、保険代理業

### 電子材料・その他の事業

エレクトロニクス関連機器、情報通信システム、特殊合金他新材料（ターゲット材等）、材料検査業、LPガス容器製造業、総合商社、ICテストサービス、超電導製品、情報サービス、旅行代理店業

## CONTENTS

財務ハイライト / Business Field	1	トピックス	6	環境への取り組み	9
ごあいさつ	2	財務諸表 [連結]	7	Corporate Data	10
業績のご報告	3	財務諸表 [単独]	8		

# 「ものづくり」の精神にこだわり、 飽くなき探究心を持って

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

神戸製鋼グループは、第153期の上半期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）におきまして、需要家の要請にお応えすべく高水準の生産を維持しながら、販売価格の改善に努めてまいりました。

鋼材につきましては、高級鋼を中心とした旺盛な需要により高水準の出荷が続き、販売価格の改善が進みました。また、機械分野では、国内の堅調な民間設備投資や海外における石油、LNG等エネルギー関連需要の盛り上がりを背景に、圧縮機や産業機械、エネルギー関連機器等の売上高が、好調に推移しました。

この結果、当上半期の連結業績は、売上高は7,895億円、営業利益は1,082億円、経常利益は854億円、税引き後の中間純利益は367億円となりました。

当期の中間配当につきましては、慎重に検討いたしました結果、財務基盤の強化の観点からその実施を見送らせていただくことといたしました。株主の皆様には、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

今後の見通しにつきましては、米国経済の減速懸念や原油価格の上昇によるインフレ懸念など不安要素はあるものの、国内の設備投資や個人消費は引き続き堅調に推移すると予想されることから、景気は拡大基調を維持するものと見込まれます。このような状況の中、当社グループは事業競争力の強化に向け、戦略的な設備投資の実行や「オンリーワン・ナンバーワン」製品の創出・育成などの施策に、重点的に取り組んでまいります。

なお、当社は、本年9月29日に公正取引委員会より、鋼製橋梁談合事件に関し排除勧告を受け、これを応諾いたしました。この事実を厳粛かつ真摯に受け止め、コンプライアンス体制の再徹底を重要な経営課題として、今後の再発防止に全力をあげてまいります。

加えて、環境、安全、防災といった観点にも十分配慮し、神戸製鋼グループ全体として社会的責任を果たしていく所存であります。

当社は、本年9月1日をもちまして創立100周年を迎えることができました。株主の皆様を始め、取引先、地域社会の方々など、創業以来、当社とご縁のある関係各位のご支援に対しまして、深く感謝申し上げます。

次なる100年に向けまして、「ものづくり」の精神にこだわり、飽くなき探究心を持って、需要家の皆様の様々な要請にお応えできる高機能・高品質の製品・サービスの提供を行ない、企業価値の更なる向上に努めるとともに、社会の発展に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年11月



代表取締役社長

犬伏 泰夫

# 業績のご報告

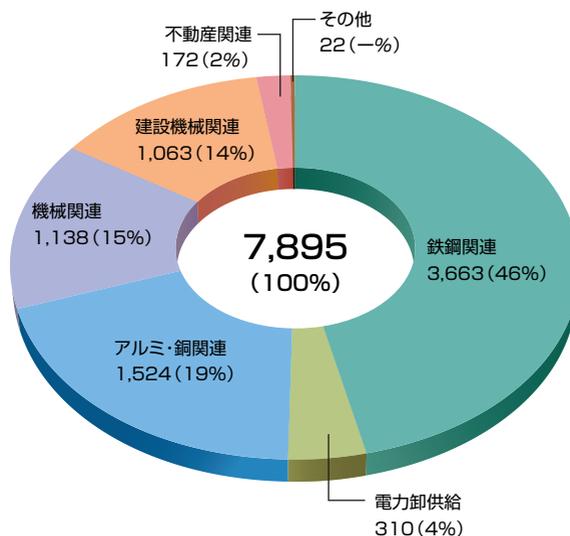
## 当上半期の概況

当上半期のわが国経済は、企業収益の改善を背景に設備投資や個人消費などの民間需要が堅調に推移したことに加え、米国経済や中国を始めとするアジア経済が引き続き好調であったことなどから、景気は踊り場を脱却し回復に向かいました。

当上半期の連結業績につきましては、売上高は前年同期に比べ1,047億円増収の7,895億円、営業利益は408億円増益の1,082億円、経常利益は402億円増益の854億円となりました。また、特別損失として、本年10月1日の不動産事業分割に関連して発生した損失や、本年5月に加古川製鉄所で発生した火災事故に係る損失を計上したことなどから、税引き後の中間純利益は367億円となりました。

単独業績につきましては、売上高は前年同期に比べ839億円増収の5,108億円、営業利益は369億円増益の773億円、経常利益は348億円増益の603億円となり、税引き後の中間純利益は223億円となりました。

■セグメント別売上高(平成17年度上半期) (単位:億円)



(注) その他には「電子材料・その他の事業」とセグメント間の内部売上高等の消去額が含まれております。

## 鉄鋼関連事業

国内の鋼材需要は、自動車、造船など製造業向けを中心に、中高級品分野において極めて旺盛に推移しました。一方、輸出については、中国における生産能力の拡大等を背景に、汎用品分野で需給バランスが悪化し市況が軟化しました。こうした状況の中、当社は国内需要家の要望に対応する一方、輸出では価格維持を最優先に慎重な受注姿勢を継続したことにより、鋼材の出荷数量は輸出向けが減少したものの、全体では前年同期を上回りました。一方、鋼材販売価格は、原材料価格

が高騰する中、中高級品における需給の逼迫等を背景に着実に改善しました。

溶接材料については、国内が自動車や造船向けを中心に好調であったことに加え、海外においても、

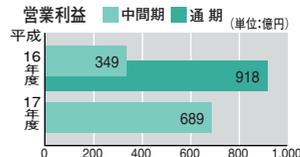
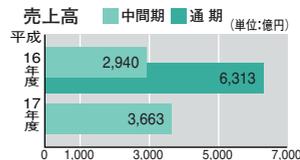
自動車、造船のほかエネルギープロジェクト案件向けが堅調に推移しました。

この結果、売上高は前年同期比25%増の3,663億円となり、営業利益は前年同期に比べ340億円増益の689億円となりました。



線材・棒鋼製品

### ●鉄鋼関連事業



## 電力卸供給事業

現在、1号機、2号機あわせて140万キロワットの電力を供給している神鋼神戸発電所では、売上高は電力単価に転嫁される燃料用石炭価格の上昇等により、前年同期比13%増の310億円となりました。営業利益は安定操業の確保に向け

て設備点検を実施したことなどから、前年同期に比べ13億円減益の83億円となりました。



神鋼神戸発電所 (中央操作室)

## アルミ・銅関連事業

アルミ圧延品は、主力の飲料用缶材において、国内向けはボトル缶の採用増により増加したものの、輸出を大幅に削減したことから、缶材全体の販売量は前年同期を下回りました。また、自動車向け板材がアルミ化の進展等により増加しましたが、昨年の猛暑影響の反動によってエアコン用フィン材等が減少したことに加え、押出材も低調であったことから、アルミ圧延品全体の販売量は前年同期を下回りました。

銅圧延品の板条では、半導体向けが総じて調整局面にありましたが、自動車電装部品用端子向けが引き続き好調に推移したことから、前年並みとなりました。一方、銅管では、空調用銅管の需要が昨年の猛暑影響の反動で減少し、輸出も削減したことから、銅圧延品全体の販売量は、前年同期を下回りました。

以上のように、販売量は減少したものの、地金価格の高騰や販売価格の改善などにより、売上高は前年

同期比4%増の1,524億円となり、営業利益は前年同期に比べ37億円増益の122億円となりました。



磁気ディスク用アルミ基盤

## 機械関連事業

機械受注のうち、国内向けは、民間設備投資の増加を背景に汎用圧縮機等が増加したことにより、前年同期比4%増の685億円となりました。また、海外向けは、石油・ガス、エネルギー分野を中心に非汎用圧縮機や、リアクター等のエネルギー関連機器が好調であったことに加え、ゴム・タイヤ機械も堅調であったことから、前年同期比33%増の418億円となりました。

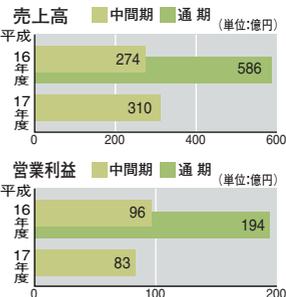
この結果、当事業全体の受注高は前年同期比13%増の1,103億円となり、当上半期末の受注残高は2,447億円となりました。

また、売上高は好調な受注の継続を受けて、前年同期比24%増の1,138億円となり、営業利益は前年同期に比べ29億円増益の31億円となりました。

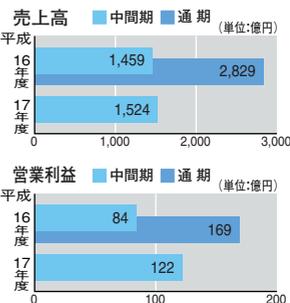


LNG気化器

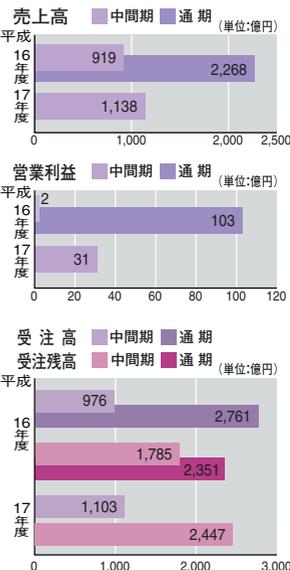
### ●電力卸供給事業



### ●アルミ・銅関連事業



### ●機械関連事業



## 建設機械関連事業

油圧ショベルの国内市場は、堅調な民間建設投資や中古車の輸出による国内ストック台数の減少等を背景に、好調を維持しました。一方、海外市場では、インドネシアが調整局面にあるものの、東南アジアが総じて好調に推移し、欧米市場も拡大基調を維持していることに加え、低迷していた中国市場にも漸く底打ち感が出てきたことから、全体としては堅調に推移しました。

このように需要環境は総じて良好であったものの、中国市場の停滞による影響もあり、売上高は前年同期比ほぼ横ばいの1,063億円となり、営業利益は前年同期に比べ7億円減益の36億円となりました。



油圧ショベル

## 不動産関連事業

首都圏の新築マンション発売戸数は、景気拡大基調を背景に増加しつつありますが、近畿圏ではほぼ横ばいで推移しました。

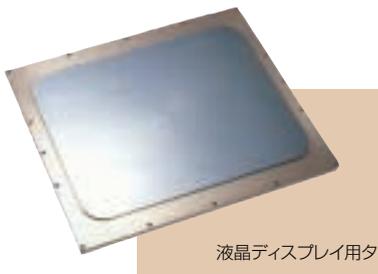
このような状況の中、不動産販売事業において、当上半期での竣工・引渡し案件が少なかったこともあり、売上高は前年同期並みの172億円となり、営業利益は前年同期に比べ2億円減益の13億円となりました。



ジークレフクラッシィ西宮

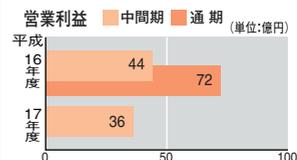
## 電子材料・その他の事業

液晶ディスプレイ用ターゲット材の需要が引き続き好調に推移したことなどから、全体の売上高は前年同期比12%増の282億円となり、営業利益は前年同期に比べ20億円増益の84億円となりました。

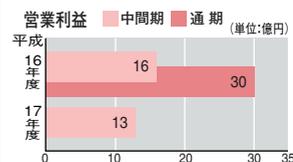


液晶ディスプレイ用ターゲット材

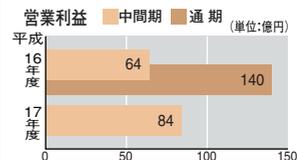
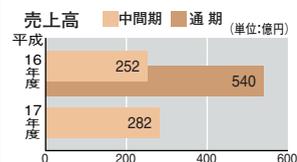
### ●建設機械関連事業



### ●不動産関連事業



### ●電子材料・その他の事業



### 100周年記念事業

当社は、平成17年9月1日に記念行事として、「神戸製鋼発祥の地記念碑」の除幕式、記念式典、ならびに祝賀会を開催いたしました。祝賀会には、地元関係者の方々に多数ご出席いただき、これまでのご支援に対して、犬伏社長より感謝の言葉を申しあげました。

なお、記念事業の一環として、地域の皆様に対し謝意を表したいと考え、加古川製鉄所をはじめとした各事業所において、学校、福祉施設、病院へ図書、車椅子、医療機器の寄贈などを行ないました。また、来年3月には記念クラシックコンサートを開催いたします。



記念碑



記念碑除幕式

### 神鋼不動産株式会社が発足

当社は、本年10月1日をもって不動産カンパニーを分社し、新会社「神鋼不動産株式会社」を発足させました。

新会社は、グループ会社とともに、不動産開発、建設、分譲、賃貸、仲介、リフォーム、ビルマネジ

メント、マンション管理、保険代理業、ゴルフ場運営等の事業を営み、不動産開発から管理、サービス等のノンアセットビジネスまで一貫して手がけており、この分社化によって、事業特性に応じた独自の経営判断を行ない、事業運営の機動性・柔軟性を最大限に発揮し、当社グループの不動産関連ビジネスの中核を担う企業として更なる発展を目指します。



新神戸駅前プロジェクト完成予想図(右側超高層マンション)

### 各事業分野において 中国に相次いで拠点を新設

当社グループは、目覚ましい経済発展を遂げている中国に、各事業分野において生産・販売拠点の設立を進めております。

本年5月には、江蘇省蘇州市に、当社全額出資による電子材料用銅板材のスリット(条切り)加工・販売および技術サービスを行なう新会社「蘇州神鋼電子材料有限公司」を設立しました。今後はこの新会社でスリット加工することによって

納期の短縮を図るとともに、技術サービス機能を兼ね備えることで需要家における設計・開発段階からのきめ細かい営業活動が可能となりました。

また、7月には、江蘇省江陰市に、自動車用冷間巻き懸架ばねに使用される特殊鋼線材の二次加工会社「江陰法爾勝杉田彈簧製線有限公司」を、共同出資により設立しました。新会社の設立により、広州で建設中の自動車用熱間巻き懸架ばねに使用

される磨き棒鋼の二次加工会社「神鋼線材加工(佛山)有限公司」とともに、中国の主要自動車生産地に自動車懸架ばね用鋼を広く供給できる体制が整うこととなります。



銅条



懸架ばね

## 連結貸借対照表の要旨

(単位:億円)

(平成17年9月30日現在)

科目	金額	科目	金額
<b>資産の部</b>	<b>(19,614)</b>	<b>負債の部</b>	<b>(14,924)</b>
流動資産	7,362	流動負債	8,856
現金及び預金	844	支払手形及び買掛金	3,968
受取手形及び売掛金	2,821	短期借入金	1,625
たな卸資産	2,922	コマーシャル・ペーパー	320
その他	774	一年内償還社債	803
固定資産	12,252	その他	2,139
有形固定資産	9,474	固定負債	6,067
建物及び構築物	2,918	社債	2,182
機械装置及び運搬具	4,210	長期借入金	2,722
その他	2,345	その他	1,163
無形固定資産	147	<b>少数株主持分</b>	<b>(358)</b>
投資その他の資産	2,629	<b>少数株主持分</b>	<b>358</b>
投資有価証券	1,832	<b>資本の部</b>	<b>(4,331)</b>
その他	797	資本金	2,183
		資本剰余金	681
		利益剰余金	1,094
		土地再評価差額金	4
		その他有価証券評価差額金	488
		為替換算調整勘定	△106
		自己株式	△12
<b>資産合計</b>	<b>19,614</b>	<b>負債・少数株主持分及び資本合計</b>	<b>19,614</b>

(注) 金額は億円未満の端数を切り捨てております。

連結ベースの株主資本は、367億円の中間純利益を計上したことに加え、株価上昇による保有株式の評価差額金の増加により、前期末に比べて539億円増加し、4,331億円となりました。これらの結果、当上半期末の株主資本比率は22.1%となり、前期末に比べて2.2%上昇しました。

## 連結損益計算書の要旨

(単位:億円)

(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

科目	金額
営業収益	7,895
営業費用	6,812
営業利益	1,082
営業外収益	218
営業外費用	446
経常利益	854
特別損失	186
税金等調整前中間純利益	667
法人税、住民税及び事業税	233(減算)
法人税等調整額	52(減算)
少数株主利益	15(減算)
中間純利益	367

(注) 金額は億円未満の端数を切り捨てております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:億円)

(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

科目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,049
投資活動によるキャッシュ・フロー	△386
財務活動によるキャッシュ・フロー	△657
現金及び現金同等物に係る換算差額	9
現金及び現金同等物の増減額	15
現金及び現金同等物の期首残高	805
連結の範囲の変動による増減額	15
現金及び現金同等物の中間期末残高	837

(注) 金額は億円未満の端数を切り捨てております。

## 単独貸借対照表の要旨

(単位:億円)

(平成17年9月30日現在)

科目	金額	科目	金額
<b>資産の部</b>	<b>(14,182)</b>	<b>負債の部</b>	<b>(10,088)</b>
<b>流動資産</b>	<b>4,131</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,216</b>
現金及び預金	19	支払手形・買掛金	2,398
受取手形・売掛金	1,311	短期借入金	1,248
たな卸資産	1,868	コマーシャル・ペーパー	320
その他	931	一年内償還社債	797
		その他	1,452
<b>固定資産</b>	<b>10,051</b>	<b>固定負債</b>	<b>3,871</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>6,211</b>	社債	2,148
建物及び構築物	1,936	長期借入金	1,171
機械及び装置	2,633	その他	552
その他	1,641		
<b>無形固定資産</b>	<b>112</b>	<b>資本の部</b>	<b>(4,094)</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,727</b>	資本金	2,183
投資有価証券	1,346	資本剰余金	680
関係会社株式	1,365	利益剰余金	784
その他	1,016	その他有価証券評価差額金	449
		自己株式	△2
<b>資産合計</b>	<b>14,182</b>	<b>負債及び資本合計</b>	<b>14,182</b>

(注)金額は億円未満の端数を切り捨てております。

## 単独損益計算書の要旨

(単位:億円)

(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

科目	金額
<b>営業収益</b>	<b>5,108</b>
営業費用	4,335
<b>営業利益</b>	<b>773</b>
営業外収益	279
営業外費用	448
<b>経常利益</b>	<b>603</b>
特別損失	199
<b>税引前中間純利益</b>	<b>403</b>
法人税、住民税及び事業税	150 (減算)
法人税等調整額	29 (減算)
<b>中間純利益</b>	<b>223</b>
前期繰越利益	547
<b>中間未処分利益</b>	<b>771</b>

(注)金額は億円未満の端数を切り捨てております。

連結キャッシュ・フローについては、税金等調整前中間純利益667億円や減価償却費392億円の計上などにより、当上半期の営業活動によるキャッシュ・フローは1,049億円となりました。また、投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出などにより△386億円の支出となりました。営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合計した当上半期のフリー・キャッシュ・フローは663億円となり、これらにより外部負債を削減したことなどから、財務活動によるキャッシュ・フローは、△657億円となりました。

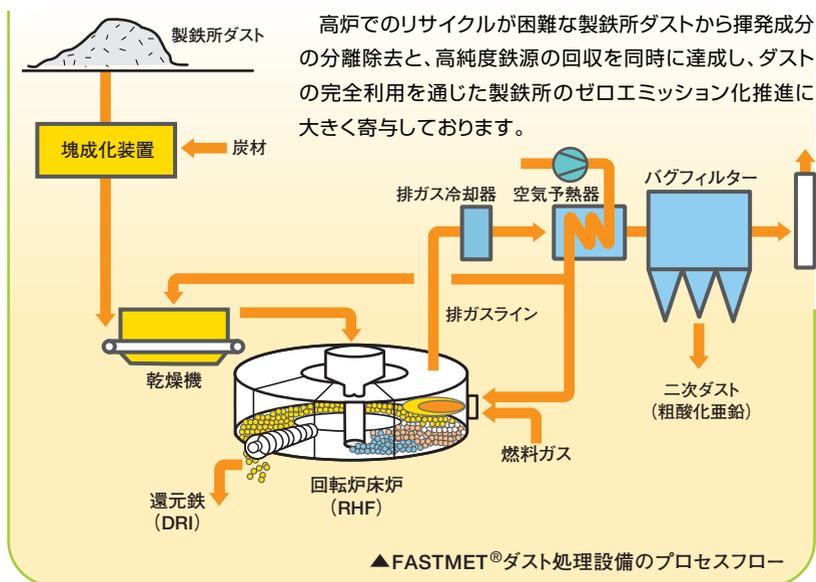
中間純利益は、本年10月1日の不動産事業分割に関連して発生した損失や、本年5月に加古川製鉄所で発生した火災事故に係る損失を計上したものの、経常利益の増加もあり、前年同期比108億円増益の223億円となりました。

# 平成17年度「資源循環技術・システム表彰」で 経済産業大臣賞を受賞



保坂経済産業副大臣（当時）と当社佐藤代表取締役副社長（左）

回転炉床炉による製鉄所ダスト FASTMET®リサイクルプロセスの開発について、開発成果やその操業実績等が評価され、平成17年度「資源循環技術・システム表彰」（主催：財団法人クリーン・ジャパン・センター／後援：経済産業省）において経済産業大臣賞を受賞致しました。



## 環境経営基本方針 [グループ環境経営の推進]

神戸製鋼グループは、あらゆる事業活動に環境配慮を組み入れ、

1. 社会との共生・協調（環境コミュニケーション）
2. 環境負荷低減の徹底（環境保全）
3. 製品・技術・サービスにおける新たな価値創出（環境イノベーション）

により、総合力で環境先進企業グループを目指す。

神戸製鋼グループは、企業活動と地球環境との共生と調和を一層深めていくため、「環境先進企業グループ」を目指し、環境経営委員会のもと、6つの実施事項を柱として環境経営を推進しております。



環境経営委員会（2005年8月開催）



2005年度版 環境報告書



## 環境シンボルマーク

神戸製鋼グループは、「環境」イメージの浸透と社員への「環境」マインドの醸成を狙いとして、環境シンボルマークを設定しています。フリーハンドの「青々と生い茂る木の葉」がナチュラルで優しいイメージを表現し、矢印と「ECO WAY」という言葉を組み合わせ、「環境先進企業への道を一歩ずつ着実に進んでいく企業姿勢」を表しています。

## 連結子法人等および持分法適用関連会社 [218社]

(平成17年9月30日現在)

## ■鉄鋼関連事業:65社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、  
 神鋼建材工業株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、  
 堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス、  
 神鋼総合サービス株式会社、KOBエウエルディングワイヤ株式会社、  
 エヌアイエル株式会社、神鋼鋼線工業株式会社、  
 住友チタニウム株式会社、関西熱化学株式会社 他

## ■電力卸供給事業:1社

神鋼神戸発電株式会社

## ■アルミ・銅関連事業:30社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、神鋼リードミック株式会社、  
 サン・アルミニウム工業株式会社、神鋼ノース株式会社、  
 神鋼メタルプロダクツ株式会社、  
 コウベ プレシジョン テクノロジー センディリアン ベアヘッド、  
 シンガポール コウベ プライベート リミテッド 他

## ■機械関連事業:40社

株式会社神鋼環境ソリューション、神鋼造機株式会社、  
 コベルコ・コンプレッサ株式会社、神鋼アイ・イー・テック株式会社、  
 神鋼電機株式会社、株式会社アーステクニカ、  
 コンプレホ シデルルヒコ デグアジャナ セーアー 他

## ■建設機械関連事業:38社

コベルコ建機株式会社、コベルコクレーン株式会社 他

## ■不動産関連事業:10社

コベルコ開発株式会社 他

## ■電子材料・その他の事業:34社

株式会社コベルコ科研、神鋼JFE機器株式会社、  
 コウベ スチール USA ホールディングス インコーポレーテッド、  
 神鋼商事株式会社、日本メディカルマテリアル株式会社、  
 ジェネシス・テクノロジー株式会社 他

(注)1.※印は持分法適用関連会社であります。

2.コベルコ開発株式会社は、平成17年10月1日付で当社の不動産部門と  
 事業統合し、神鋼不動産株式会社に商号を変更しました。

## 取締役および監査役、執行役員

(平成17年9月30日現在)

取締役会長(代表取締役)  
 水越 浩士

取締役社長(代表取締役)  
 犬伏 泰夫

## ■本社

取締役副社長(代表取締役)  
 佐藤 廣士

常務執行役員  
 吉田 達樹

執行役員  
 藤原 寛明

専務取締役  
 浅岡 徹

執行役員  
 川田 豊

専務取締役  
 松谷 高志

執行役員  
 田中 順

## [鉄鋼部門]

取締役副社長(代表取締役)  
 ※木村 敏夫

常務執行役員  
 大西 功一

執行役員  
 山口 育廣

専務執行役員  
 田中 毅

常務執行役員  
 中村 秀樹

執行役員  
 公文 康進

専務執行役員  
 小山 敬治

常務執行役員  
 村瀬 敬一

執行役員  
 吉田 裕信

常務執行役員  
 中園 政明

執行役員  
 阿部 央道

常務執行役員  
 賀屋 知行

執行役員  
 小南 孝教

## ■溶接カンパニー

専務取締役  
 ※藍田 勲

## ■アルミ・銅カンパニー

専務取締役  
 ※中山 裕之

執行役員  
 高橋 徹

執行役員  
 長井 生一

常務執行役員  
 大城 英夫

執行役員  
 下村 良介

## ■機械エンジニアリングカンパニー

取締役副社長(代表取締役)  
 ※小谷 重遠

常務執行役員  
 重河 和夫

専務執行役員  
 青木 克規

執行役員  
 毛利 修三

## ■不動産カンパニー

常務執行役員  
 ※藤川 泰延

(注)1.※印は、鉄鋼部門長および各カンパニーのプレジデントであります。

2.常務執行役員藤川泰延氏は、平成17年9月30日付で退任し、  
 平成17年10月1日付で神鋼不動産株式会社取締役社長に就任いたしました。

監査役(常勤)  
 高田 治

監査役(非常勤)  
 緒方 重威

監査役(非常勤)  
 金子 崇輔

監査役(常勤)  
 大越 年祝

監査役(非常勤)  
 師田 卓

## 会社の概要

(平成17年9月30日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,183億1,474万8,065円
- 発行済株式総数 29億7,746万202株
- 株 主 数 242,572名
- 従 業 員 数 8,584名

## 事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町2丁目10番26号  
☎078 (261) 5111 (大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9番12号  
☎03 (5739) 6000 (大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・  
新潟(新潟市)・北陸(富山市)・  
四国(高松市)・中国(広島市)・  
九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海外事務所 ニューヨーク・デトロイト・シンガポール・  
北京・上海

(注)「海外事務所」には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 <鉄鋼・溶接部門> 加古川・神戸・高砂・  
藤沢・茨木・西条  
<アルミ・銅部門> 真岡・長府・大安  
<機械部門> 高砂・播磨

# KOBELCO

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>

## 株主メモ

決 算 期 3月31日

定時株主総会 6月

基 準 日

定時株主総会 3月31日

利益配当金 3月31日

中間配当金 9月30日

(その他必要のあるときはあらかじめ公告します。)

公 告 方 法 電子公告(当社ホームページをご覧ください。)  
<http://www.kobelco.co.jp>

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

## 郵便物送付および電話照会先

〒171-8508 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

☎0120-707-696 (フリーダイヤル)

※住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求および株式の相続  
手続に必要な届出用紙のご請求は、☎0120-86-4490 (フリーダイヤル:24時間  
自動音声応答サービス)でも承ります。

## ●お知らせ

名義書換代理人三菱信託銀行株式会社は、平成17年10月1日をもって、  
UFJ信託銀行株式会社と合併し、商号を「三菱UFJ信託銀行株式会社」  
に変更いたしました。